

令和の時代における 「賑わい」とは、何か

浜町・銅座・思案橋の現場から考える、
現状と5年先への提案

令和8年10月16日

参考人 熊谷 将希

VOCサポート株式会社 代表取締役／思案橋横丁会 理事



自己紹介



熊谷 将希

くまがい まさき



略歴

1993年	両親が思案橋で 「炭火やきとり武将門」を創業
22歳	関西学院大学を卒業し、 父の他界を受けて武将門へ
2019年～	プログラミングを学び、 Web3.0を経て、現在はAIへ
2023年	武将門の経営を継承
2026年3月	VOCサポート株式会社を設立



炭火やきとり武将門（思案橋）

地域での役割と、今取り組んでいること



思案橋横丁会 理事

- ・ V・ファーレン長崎と連携し「アディショナルタイム」開催
- ・ コロナ禍に「思案橋くんち」を開催
- ・ 加盟店の発信力強化を企画中



長崎青年会議所 (JC)

- ・ 2025年4月、例会委員長として市長らを招いた例会を開催
- ・ 今年度は拡大室長として会員拡大を担当
- ・ 次年度は専務理事（予定）



本石灰町 自治会・青年部

- ・ 青年部 部長（現在）
- ・ 2023年の長崎くんちで根曳頭を務める
- ・ 長崎くんちをはじめ、地域の祭りや行事を支える

本日お伝えしたいこと

1 現状と課題

思案橋横丁の強みと、現場で見えている課題

2 視点の転換

昔に「戻す」のではなく、今の長崎に合わせて「更新する」

3 5年先への提案

新しい賑わいの物差しと、官民で取り組みたいこと

環境は変わった。それでも、横丁の良さは残っている

■ まちなかを取り巻く変化

- ・ 大型商業施設（アミュプラザ等）への集客
- ・ ネット通販の普及
- ・ 消費行動の変化

■ 思案橋横丁の現状

- ・ 空き店舗がなかなか出ない
- ・ コロナ禍でも、ほとんどの店が閉店しなかった

その理由は、常連のお客さまに支えられていること

現場で見えている課題

課題1 魅力を発信できていない

常連さんが知っている横丁の良さが、
新しいお客さまや観光客に届いていない

現場の実感

- ・ 看板を見て検索しても、
情報が出てこない店が多い

課題2 動く人が少ない

イベントを企画し、実際に動く人が
ほとんどいない

現場の実感

- ・ 過去のイベントは、
ほぼ一人で動いてきた
- ・ 本石灰町は青年部が動いてくれるが、
持続可能とは言えない

なぜ、動く人が生まれにくいのか

お店の人は	外から来た人は
店を開けながら、企画や運営まで担うのは現実的に難しい	全然知らない人が「まちおこし」と言っても、聞いてもらえない

必要なのは、まちの中を知り、実際に動ける担い手

そのために、VOCサポート株式会社を立ち上げました。

新しい人の流れは、確実に生まれている

■ 長崎全体で見ると

- ・ 長崎スタジアムシティの開業
- ・ 観光客・インバウンドの増加
- ・ V・ファーレン長崎など、スポーツによる来街

45点

スタジアムシティ開業から
約半年時点での自己評価

(岩下社長／長崎JC 4月例会)

残りの点数は、まちなかと一緒に上げていける。

問われているのは、その人の流れを浜町・銅座・思案橋へどうつなぐか。

実践① コロナ禍でも、街を止めない

思案橋くんち2020（令和2年11月28日）

時間	内容
16:00	餅つき大会
18:00	鏡開き・本石灰町 囃子披露
19:00	銀屋町 据太鼓
19:30	栴島町 太鼓山
20:00	籠町 龍踊り
最後	みんなで「長崎万歳」

■ 開催のポイント

- ・ くんちの演し物を横丁に招き、街に元気を届けた
- ・ 検温・消毒・LINE来場登録など、感染対策を徹底
- ・ 入場制限のぶん、YouTubeで会場を生配信
- ・ 主催：思案橋横丁会・思案橋市会

できない理由より、やり方を考える。

実践② 人の流れは、まちなかにつなげられる

アディショナルタイム in 思案橋横丁（令和7年10月）



会場の様子（銅座川プロムナード広場）

きっかけ	V・ファーレン長崎 ホームゲームの試合後
移動	スタジアムシティから 無料シャトルバス
会場	銅座川プロムナード広場
参加	横丁会の加盟33店舗
主催等	主催：思案橋横丁会 共催：長崎市

来場者の声

「街が明るくなった」「また開催してほしい」

実践③ 行政・スタジアム・クラブと、同じテーブルで

長崎JC 4月例会「データで見る100年に1度の長崎の変革」



スタジアムシティホテル長崎（令和7年4月8日）

登壇者	所属・役職
鈴木 史朗 氏	長崎市長
岩下 英樹 氏	リージョナル クリエイション長崎 社長
田河 毅宜 氏	V・ファーレン長崎 社長
熊谷 将希	例会委員長（企画）

市職員の皆さんとグループワークを行い、スタジアムシティの効果をまちなかへ広げる方法を考えました。

視点の転換：昔に「戻す」から、今に「更新する」へ

	これまでの見方	これからの見方
指標	通行量・店舗数	滞在・交流・挑戦も指標に
空き店舗	衰退のあらわれ	挑戦の「余白」
方向性	昔の賑わいを取り戻す	今の長崎に合わせて更新する

空き店舗や家賃の変化も、若い人や新しい事業者が挑戦できる余白と捉えたい。

これからの「賑わい」とは

人がたくさん「通る」ことだけが、賑わいではない。



そして、新しい挑戦が生まれ続ける。

この循環が回り続ける状態こそ、令和の時代の「賑わい」の一つではないか。

目指す姿

若い人が 「ここで商売をしたい」 と思える街へ

思案橋・銅座・浜町で、次の世代が店を開き、
商売を続けていける街にしたい。

そうでなければ、長崎くんちにも影響が出る。

街で商売をする人がいなくなれば、
くんちを支える担い手も減ってしまう。



新しい「物差し」を一緒に作りたい

通行量・店舗数に加えて、今の賑わいを測る指標の例

観点	指標の例
滞在	滞在時間、はしご率（何軒回ったか）
交流	イベント参加者数、地域外からの来街者数
発信	店舗情報の検索数、ページ閲覧数、QRコードの読み取り数
挑戦	新規開業数、空き店舗の活用件数、若手事業者数

※ デジタルを活用すれば、多くは低コストで継続的に把握できる。

5年先を見据えて取り組みたいこと

1年目 届ける	2～3年目 つなぐ	3～4年目 担い手を増やす	5年目 検証・更新
全店舗の情報が デジタルで届く状態に (案内パネル・QR・ 店舗ページ)	スタジアムや観光と 連携した回遊づくり 多言語対応	青年部・学生・若手と 企画を回す仕組みで 一人に頼らない体制へ	新しい物差しで 成果を検証し、 次の5年へ更新

民間の担い手として、挑戦します

VOCサポート株式会社	まちの中を知り、実際に動ける担い手として 令和8年3月に設立
PFS（成果連動型） への挑戦	成果に応じて対価が支払われる仕組みで、 行政と民間が同じ成果を目指す事業に挑戦したい
ステークホルダーの拡大	JCのつながりから、V・ファーレン長崎 田河社長にもご協力のお話をいただいている

行政・議会の皆さまにお願いしたいこと

整備中のプロムナードを、年に1～2度の大きな祭りができる空間に

開通の折には、全面通行止めにして大きな祭りを開催できる場所にしてほしい。
警察やバスのダイヤなど、関係機関との調整が欠かせないからこそ、
行政がしっかりと仕組みをつくっていただきたい。

■ あわせてお願いしたいこと

- ・ 新しい物差しを一緒につくる
- ・ 若手が挑戦しやすい制度
- ・ PFSなど成果連動型の官民連携
- ・ 現場の声を届ける対話の場の継続

まとめ

**答えは、まだない。
でも、この問いを持ち続けたい。**

昔の賑わいを懐かしむのではなく、今の長崎に合った新しい賑わいを。
まちの変化を見ながら、いろんな人と話しながら、
皆さまと一緒に探していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。